

甲斐駒ヶ岳&仙丈ヶ岳山行報告

【山行日】2016年9月 3日~4日(土日)
【集 合】岩舟支所P AM 3:00
【費 用】マイカー2台 : 18,400円
【メンバー】CL:鈴木ユ 岩淵、大西、香川、関、
松館、渡辺

3日 晴れ 北沢峠から仙水峠経由で甲斐駒ヶ岳に登り、下りは双児山経由で北沢峠へ下山
岩舟支所P2:00=仙流荘 5:30/6:15=北沢峠 7:00/7:15~仙水峠 8:40/8:50~駒津峰 10:10/10:20~甲斐駒ヶ岳 12:20/12:50~駒津峰 14:05/14:15~双児山 15:05/15:15~北沢こもれび荘 16:30



北沢峠まで行くのに、以前は山梨県側からが一般的だったが、広河原まで車が入れなくなり、伊那市の戸台から行くのが主流となった。予定通り仙流荘に着くと、バス乗り場には長蛇の列が出来ていた。河川敷の駐車場に車を止め、支度を整えて列の後ろに並んだ。バスに乗る列ではなく、乗車券を購入するための列が出来ていた。以前は、人が販売していたが自動券売機に変わったため、購入者の列が出来てしまうようだ。乗車券を買うのに30分以上かかり、バスに乗るまでかなり時間をロスした。



バスは10台位あるが、我々が乗ったバスが最後の一台で、このバスに乗れなかった人たちはバスが戻ってこないと乗れなく、さらに遅くなってしまふ。バスの出発時間は遅くなったが、運転手さんが飛ばすのでほぼ予定の時間に到着した。北沢こもれび荘で受付を済ませ、余分な荷物を預け出発する。

北沢峠から山梨県側にわずかに下り、北沢沿いに北沢長衛小屋の脇を抜けて登り始める。樹林帯を沢通しに登って行くと、仙水小屋に出る。さらに樹林帯を緩やかに登ると、ゴロゴロした岩が積み上がった斜面に突き当たる。右に進み岩の中を歩いて行くと、仙水峠に出た。

休憩を取り、梨を食べ水分を補給する。峠から左に進み、樹林帯の直登が駒津峰まで続く。急な登りで

汗が噴き出すが、時折甲斐駒ヶ岳と摩利支天が顔を出し疲れを癒してくれる。駒津峰に着くと森林限界を抜け、甲斐駒ヶ岳や明日登る仙丈ヶ岳の展望が広がる。休憩後、細尾根を北に進み岩の尾根を下り、六万石の巨石群を抜けるとルートが2つに分かれる。右の一般ルートを進み、白砂の山腹をジグザグに登って行く。ここでMちゃんに異変が起き、足が攣ってしまったらしい。

5人はそのまま頂上を目指して登り、我輩はMちゃんとゆっくり登って行く。摩利支天との分岐にMちゃんのザックをデポし、ゆっくりと皆さんの後を追う。先行した5名も、高度が上がるにつれきつくなりペースが落ちてきた。左に斜上して行くと、先行した5名に追いつき、石室が建つ甲斐駒ヶ岳山頂に出た。あいにく山頂は



ガスが掛かり、富士山や南アルプスの展望は得られなかったが、時折ガスが晴れると近くの山々が見渡せた。全員が揃ったところで、記念写真を撮り石室の裏側に場所を取ってランチタイムとする。

今日の山ご飯はきのこうどん。キノコたっぷりのうどんを食べ、皆疲労が回復したようだ。I さんがニコニコ顔で「いい場所見つけたよ」と嬉しそう。

女性たちは、I 淵さんの案内でお花摘みに。スッキリしたところで記念写真を撮り、下山する。下山は往



路を駒津峰まで戻り、双児山方面に降りて行く。

ハイマツの中を下って行き、樹林帯の鞍部まで下って双児山へ登り返す。双児山で休憩し、モンキーバナナでエネルギーを補給する。ここからは深い樹林帯の下りである。長い下りをひたすら下り続け、木の間にこもれび荘の屋根が見えると北沢峠に着く。

小屋の方に2階に案内され、各自寝床を確保し荷物を整理する。女性たちは脱衣所で着替え、我々はその場で着替えた。落ち着いたら、外のベンチで小宴会を始める。生ビールや地ビールで乾杯し、夕食の時間まで続いた。夕食は名物のメンチカツがとても美味

しかった。食事中、小屋のマスターが明日の天気を知らせてくれ、「明日は、朝のうちはガスが掛かり、午前中から雨で登山は止めたほうが良い」との事。

皆さんに、「明日は予定通り起床し、雨模様だったら登山は諦める」と言って床に就いた。

4日 晴れ後曇り 北沢峠から藪沢コースを登り馬ノ背ヒュッテ、仙丈小屋を経由し仙丈ヶ岳山頂へ。下りは小仙丈ヶ岳経由で北沢峠へ下山し、仙流荘で汗を流し岩舟支所へ帰着。

北沢こもれび荘 5:00～大平山荘 5:10～馬ノ背ヒュッテ 7:40/7:50～仙丈小屋 8:50/9:10～千丈ヶ岳 9:40/9:50～小仙丈ヶ岳 10:45～五合目 11:20～北沢峠 12:30/12:50＝仙流荘 13:40/14:50＝岩舟支所 P 19:15

朝4時前に起床し、外に出て空を見上げると星が輝いていた。これなら登れるだろうと、皆さんを起こ



した。女性たちは、今日は雨で中止だろうと熟睡しなかなか目が覚めない。1階のテーブルで朝食の弁当と味噌汁をいただき、出発の準備をする。

出発10分前に全員揃い、ストレッチを行って出発する。林道を戸台側へ少し下り、ガードレールの手前を標識に従って大平山荘へ向かって降りて行く。

山荘の脇を通り、樹林帯の登山道を登って行く。

途中で日の出を迎え、晴れて雨の心配は全くない。

右下に藪沢の沢音を聞きながら高度を上げて行く。

途中から藪沢を渡渉し、左岸に渡ると花畑が広がっていた。沢沿いの登山道は、花や滝を見ながら登れ、とて

も楽しいコース。小屋の貯水タンクの所から沢を離れ、右に急坂を登ると馬ノ背ヒュッテに着く。ヒュッテの前のベンチで休憩し、トマトや菓子でエネルギーを補給する。立入禁止のロープの間を通り、ハイマツやナナカマドの中を馬ノ背の尾根に上がると、青空の中に小仙丈岳や甲斐駒ヶ岳が見える。尾根から左に下り、藪沢のカールの中に入って行く。カールの上部に建つ、仙丈小屋を目指して登って行く。小さな水流が現れ、水場を過ぎると間もなく仙丈小屋に着いた。小屋の前のベンチで休憩し、青空に聳える仙丈ヶ岳を見上げながらパンや菓子を食べる。このころから山頂にガスが掛かり始める。トイレを済ませ、小屋の後ろを回り込むように岩礫の山腹を登って尾根に登り上がる。尾根通しに登り、手前の小ピークを越えて登り返すと仙丈ヶ岳頂上に立つ。山頂からの大展望を期待したが、ガスが掛かり遠望は利かないが、甲斐駒ヶ岳や伊那市の街並みが見え満足する。



I 淵さんは初めての3000m峰登頂に大喜びしていた。記念写真を撮り、梨やチョコレートを食べ景色を



楽しんだら下山する。下山は小仙丈岳への尾根を辿って降りて行く。右側に小仙丈沢のカールを見下ろしながら、岩稜の尾根を急降下して行く。小ピークをいくつか越え、岩尾根を進むと小仙丈岳に着く。ここから少し下るとシラビソなどの樹林帯に入り、暗い樹林の中を下って行く。五合目の大滝ノ頭で昼食の予定だったが、バスの時間に余裕が無いので、昼食を食べずに下ることにする。

3合目を過ぎるとルートが2つに分かれ、右に北沢へ下る道を分け左に進む。緩やかにアップダウンを繰り返し、急坂を下るとこもれび荘の屋根が見え

北沢峠のトイレ脇に降り立つ。バスの時間は13:10分だが、人数が29名になれば出発するという。こもれび荘に預けた荷物を受け取り、バスの順番に並ぶ。待合室のベンチに番号が書いてあり、29番まで座るとバスが来て順番に乗り込む。定刻より20分早くバスが出て、仙流荘にも早く着くことが出来た。仙流荘の温泉で汗を流し、食堂で昼食を食べ帰路につく。天気予報に反し、二日間とも良い天気にも恵まれ南アルプスの百名山2座に登頂出来大満足の山行が出来た。